ねっとわあく

No.28

～女と男の21世紀にむけて～

●特集　変えるのは自分

ねっとわあく

No.28

もくじ

⊙特集：～女と男の21世紀にむけて～
「変えるのは自分」

4 提言ー決めるのはあなた自身
まず確実な第一歩を踏み出そう
・横浜市女性協会コーディネーター
桜井　陽子さん

6 働き方私流
・伊東市　長田　早智子さん
・静岡市　中村　一恵　さん
・静岡市　大国　田鶴子さん

8 男女共修の家庭科をのぞいてみよう
・静岡県立富士宮東高等学校

10 新しい家庭観を求めて
・「家庭を考える県民フォーラム」から

12 行動するためのお役立て情報
相談窓口・助成団体紹介…他

14 編集員のおすすめBOOK

15 編集後記

今ある状態が変わらないことを

“世の中のしくみが…”“慣習が…”“家庭が…”と

私たちは自分以外の何かのせいにしてしまうことがあります

女性と男性が対等な協力者として尊重しあう21世紀の社会をめざすなら

“いつになったら変わるのかしら、誰が変えてくれるのかしら”と

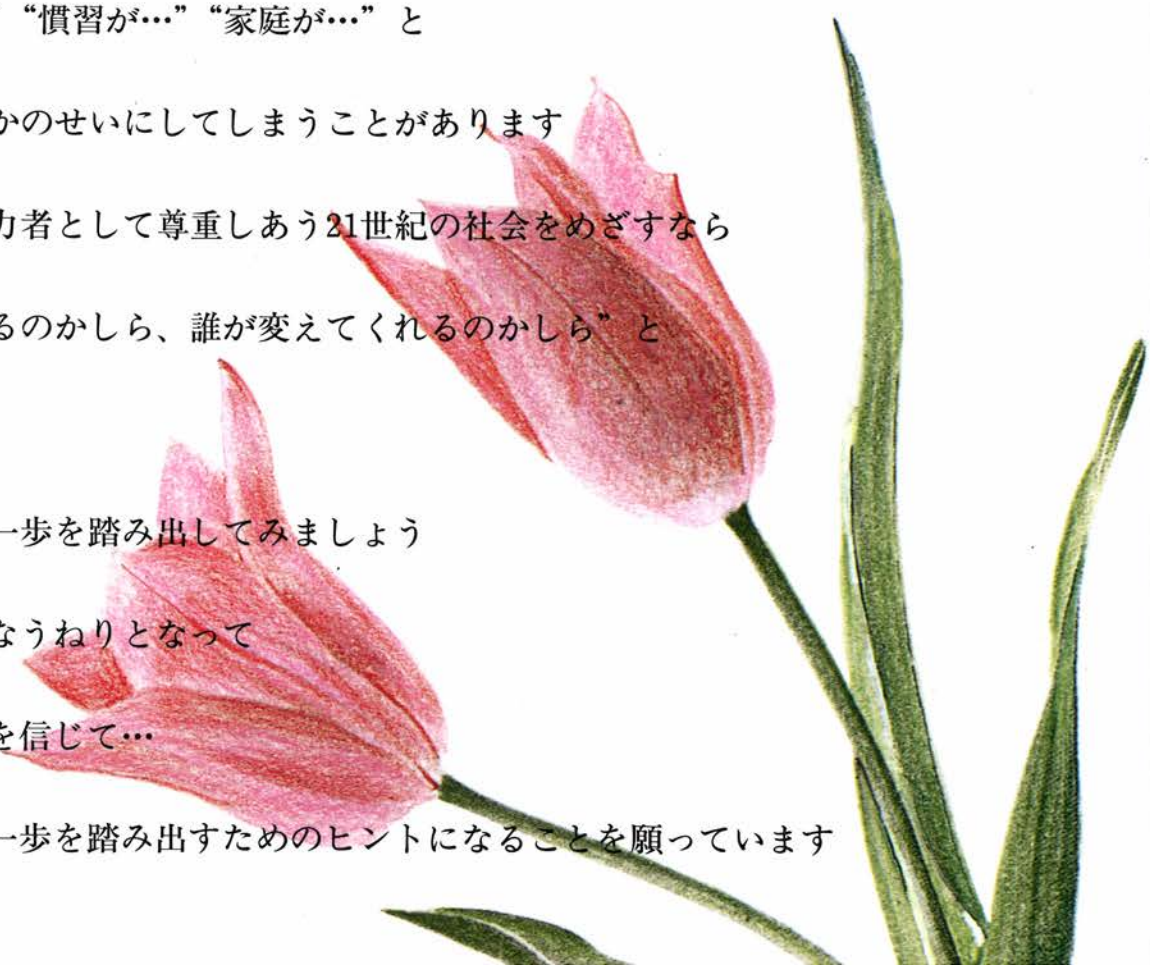
ただ待つのではなく

まず　自分から小さな一歩を踏み出してみましょう

その小さな歩みが大きなうねりとなって

新しい未来に続くことを信じて…

この号が　あなたの第一歩を踏み出すためのヒントになることを願っています



特集

～女と男の21世紀にむけて～

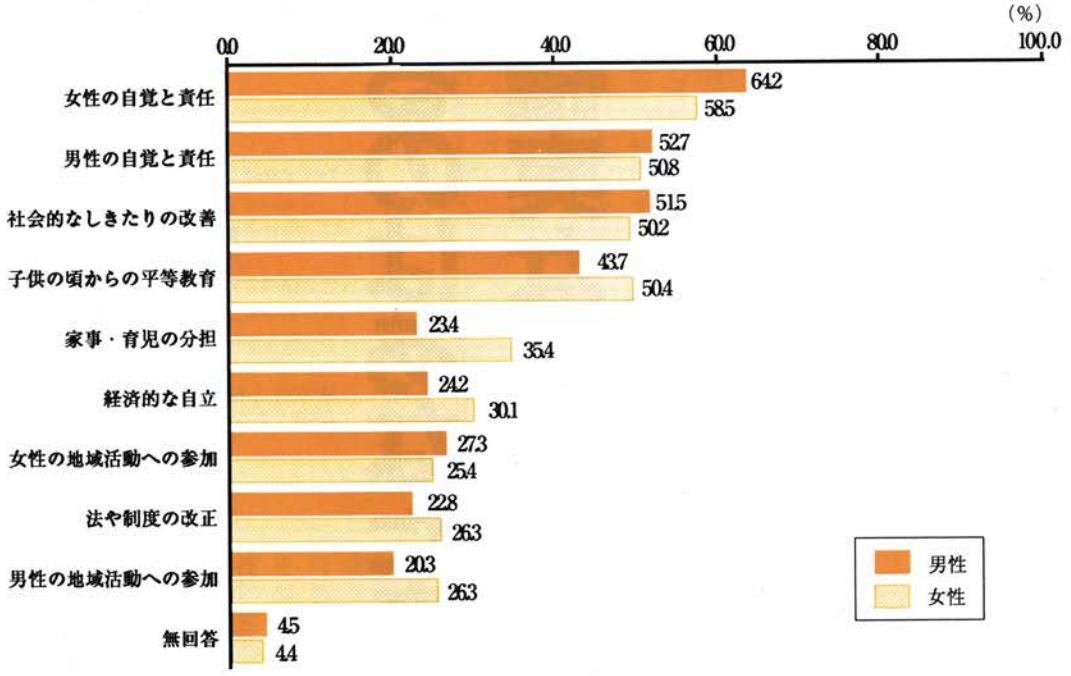
変えるのは自分

Q.あなたはこのデータをどう読みますか？

※資料出所：「豊かな静岡県を築くために　男性と女性は今　調査結果報告書」
静岡県環境・文化部婦人課　静岡県女性総合センター（平成６年）

□男女共同参画社会の実現方法

今後、男女がそれぞれの個性と能力を発揮し、協力しあう社会(男女共同参画社会)をつくるためには、どのようにしたらよいと思いますか。(いくつでも)



■解説■

男女共同参画社会を実現させるためには…の問いに「女性が自覚と責任をもつこと」と答えた人が男女ともに最も多く、それぞれ64.2% 58.5%となっています。

男女間で一番差の大きかった答えは、「男女とも家事・育児を分担する」で、男性23.4% 女性35.4%と、12%の差が生じています。

上記のデータをあなたはどう読みますか？

また、あなたなら、どうすれば男女共同参画社会が実現できると思いますか。

提言

財団法人 横浜市女性協会コーディネーター

桜井陽子さん

決めるのはあなた自身 まず確実な第一歩を踏み出そう

これまでの女性の社会参加支援というのは、多くが〝社会教育参加〟支援でよしとして来なかったか…。桜井陽子さんは、そうした疑問から、〝教育〟で終わらない、さまざまな場への参加・参画を促す事業に取り組んでこられました。女性が力をつけ、行動していくにはどうしたらいいのかについて、語っていただきました。

出口のみえる事業をめざして

この仕事につく前、フリーで仕事をしていたのですが、その頃からよくいろいろな女性センターやカルチャーセンターから、講座の企画依頼を受けていました。その時に感じたのが「学ぶだけで出口がみえない」ということでした。女性たちが知識や技術を身につけるのだけれども、それを使って社会参加していくにはどうしたらいいか、それを収入につなげていくにはどうしたらいいか、というところが欠けているように思えました。

実際、今の仕事をはじめてからも、いろいろな方から「学ぶより教えたい」ということを聞きました。さまざまな場所でさまざまな技術や知識を身につけてきた人々は、学んだことを社会に生かしたいという欲求が非常に強い。学ぶだけではなく、女性たちは確実にその先を求めている。そこで、そうした女性たちのニーズに答えるものとして「出口の見える講座」というものを企画したのです。具体的な社会参加、職業、地域社会への参加など、そうしたことをしたい人の背中をポンと押す、そんな講座にしたかったということです。幸い、こうした事業は多くの参加者を得て、手応えは十分ありました。女性たちが具体的な社会参加を望み始めた時期と、私がこの仕事についた時期がちょうどあっていたのでしょう。

具体的に行動していくには

このごろ女性たちから「行動していくにはどうしたらいいでしょうか」という質問をよく受

私たちの世代で、後世の女性のために1つでも2つでも女性たちの問題を解決していきたいものですね

けます。これについては、その人その人の状況がまったく違いますからコツなどというものはないのだと思います。でもまず何をするにしても〝自分自身を知る〟ことから始めるということが大事だと思います。それから〝社会を知る〟、そしてそれらを〝すりあわせる〟、そうした3つのプロセスが大切になってきます。

〝自分自身を知る〟とは、自分がどういう状況にあるか、何がしたいかを確認することです。例えば働きたいのなら8時間、地域活動をしたいのなら2～3時間を、自分の24時間のどこから捻出するのか考えてみましょう。それからもっと長期的な自分のライフサイクル、つまりいつ結婚して、いつまでに子育てを終えるのか、というようなことをチェックしてみることです。子育てを終えるのが40歳として、まだまだ平均寿命からすると、あと40年余っている訳です。10年間一つのことを続ければ人に教えられるほどのベテランになりますから、それが4回できるくらい子育て後の人生は長いのです。定年後の夫との暮らしも20年あります。そういうことをチェックしていく。それが第一のステップだと思います。

次に〝社会を知る〟。もし働きたいのであれば、どこに就職口があるかとか、いくらぐらいなら雇ってもらえるか。もし、ボランティア活動をしたいなら、どんなものだったら自分は続けていけるのか、どのくらい準備が必要なのか、そのためのお金がどのくらい必要か、そうしたことを調べてみます。

そして三番目に、自分がやりたいことと、社会が受け入れてくれるかどうかを〝すりあわせる〟ということが必要になります。例えば、ライターになりたい場合、まずライターの需要がどのくらいあるか調べます。ミニコミ紙の記事を書く仕事ならありそうだということなら、これまで書きためたものを用意しなければいけないし、作文の試験があるならば文章教室などに通ってきちっとしたマスコミ文章を書けるようにしておかなければなりません。いきなりライターになる道がなかったとしても、編集プロダクションに事務として就職して何年か仕事を学びながら売り込むとか、なんとか将来につなげていけるようなすりあわせが必要です。それをしないと本当に自分がやりたいことに到達しないと思うのです。今まではその作業がなかったのではないか…。「私はこういうことをしたいけれど世の中、甘いものじゃない、受け入れてもらえないわ。別のことを探しましょう」というだけではいつまでもいきあたりばったりになるだけだと思うのです。

そして、何より大事なのが「自分で決める」ということです。夫がどう、子どもがどうという話ではないのです。たとえば再就職を目の前にして、夫の両親が倒れて介護が必要になったとします。その時に、仕事を断念するか、自分の納得のいく人生を歩むのか、どちらにしても決めるのは自分自身なのです。北京で行われた世界女性会議でも自己決定権が話題になりました。〝リプロダクティブ・ヘルス／ライツ〟女性が子どもを生むか生まないか、何人生むかは、国家や宗教が管理することでも、夫が管理することでもない。自分自身がどうするかなんですね。体のことも、そして人生も自分自身でどうするかを決める。そうするための力をつけていくことが大事です。

知恵としなやかな感性で

今、女性は理念や法制度において、ある程度男女平等を勝ち取っているわけですが、現実がそれについていっていません。それが今の女性問題だと思います。育児休業制度でもそうです。男女どちらでも、取っていいはずなのになかなかそうはいっていません。職場でもお茶を誰が入れているかというと、ほとんど女性です。昇進や採用などの問題でも現実はまだまだ女性には不利な状況です。行動を起こそうと思っても壁だらけという状態になることも多いでしょう。そんな時に正面から玉砕してはだめだと思うんですよ。そこは知恵だと思うのです。ちょっと立ち止まって、壁から少し身を引いて、斜めから見てみたら迂回路があるかもしれない。壁の正面にいたら見えないことでも少し下がれば、視野が広がる。そうやって問題を乗り越えていって欲しいと思います。私自身、正面からぶつかって組織の中で挫折したり、若い頃は失敗ばかりでした。これから女性達がさまざまな問題を解決したり、状況を変えていこうとしたら、まず身近な夫や職場などで、自分の意志を伝えるということをやっていかなければいけない。居丈高にならず、卑屈にならずに意見の違う相手にきちっと伝えて行動していかなければならないのではないでしょうか。

Profile

桜井陽子さん　Yoko Sakurai

財団法人　横浜市女性協会コーディネーター

●大学卒業後、公益法人職員、編集プロダクション代表を経て、1987年より現職。

女性の市民活動、就業支援、家族問題などをテーマに市民利用施設の事業企画に携わる。

著書に『ポストファミリー』（ユック舎）など、編著書に『女のネットワーキング』『女のグループ活動資金づくりの本』（学陽書房）、『図表で見る女の現在』（ミネルヴァ書房）など。